

マトウダイ科の稀種アオマトウダイの本邦2番目の記録

町田吉彦・宮崎栄子

高知大学理学部自然環境科学科 高知市曙町2-5-1

Second Record of a Dory *Cyttomimus affinis* Weber, 1913 (Zeidae, Zeiformes) from Japan

Yoshihiko MACHIDA and Eiko MIYAZAKI

Department of Natural Environmental Science, Faculty of Science, Kochi University, 2-5-1
Akebono, Kochi 780-8520, Japan

Abstract: A single, 39.6 mm standard length specimen of the zeid fish *Cyttomimus affinis* Weber, 1913 was collected at Mimase Fish Market in Kochi City, on the coast of Tosa Bay. It represents the second record of this species from Japan, and also the only known preserved *C. affinis* specimen other than the holotype at the present time, i.e., the two *C. affinis* specimens previously collected from Tosa Bay were destroyed during World War II. A detailed description and a photograph of the specimen are given.

Key words: *Cyttomimus affinis*, Zeidae, Zeiformes, taxonomy, zoogeography

マトウダイ科の *Cyttomimus affinis* は、バンダ海の水深304 m で得られた体長68 mm の完模式標本のみに基づき、Weber (1913) により記載された。本種の標本は、その後蒲原 (1936b) が高知市の御豊瀬魚市場で採集した個体を報告するまで得られておらず、また、その後も得られていない。蒲原 (1936b) と Kamohara (1938) は体長それぞれ59 mm と73 mm の標本に簡単な記載を与えたが、標本の採集年月日は明らかでない。これに先立ち、蒲原 (1936a) は日本産のマトウダイ類を一括して報告したが、この中に *C. affinis* が含まれていないことから、これらの2標本は1936年頃に採集されたと推測される。本種の和名は Kamohara (1938) により与えられた。しかしながら、彼の標本は第二次世界大戦末期の戦火により消失してしまった。

著者の一人、宮崎は2000年10月28日に御豊瀬魚市場で標準体長39.6 mm の本種の一標本を採集した。本個体はほぼ60年ぶりの日本からのアオマトウダイの標本であり、また、完模式標本以外に現存する唯一の標本であることに加え、従来の記載が比較的簡単であったことから、以下に詳細に報告する。

標本の計数と計測方法は中坊 (1993) に従った。脊椎骨は軟X線写真で数えた。標本は高知大学理学部 (BSKU) に保管されている。

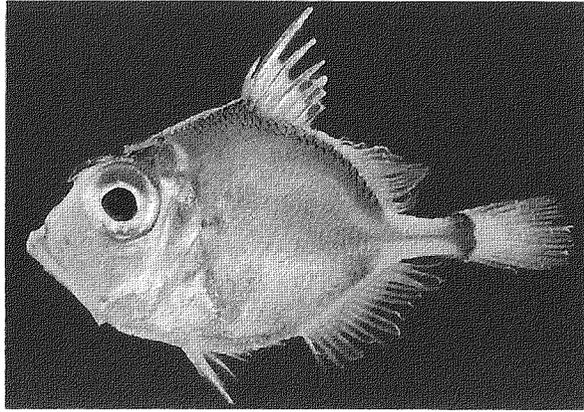


Fig. 1. *Cyttomimus affinis*, BSKU 52192, 39.6 mm SL, sex unknown, from Tosa Bay.

Cyttomimus affinis Weber, 1913

(和名：アオマトウダイ)

Cyttomimus affinis Weber, 1913: 298 (original description, type locality-5°48.2'S, 132°13'E, Banda Sea, 304 m), pl. II, fig. 2.

Cyttomimus affinis; 蒲原, 1936b: 43, fig.; Kamohara, 1938: 40, fig. 20; Machida, 1984: 118, pl. 347-E; Paxton *et al.*, 1989: 388.

材料：アオマトウダイ 1 個体，BSKU 52192，性別不明，全長49.2 mm，標準体長39.6 mm，高知市御豊瀬魚市場，2000年10月28日。

記載：計数値と計測値を表 1 に示す。体は強く側扁する。体は高く，背鰭始部付近で最大となる。峡部から肛門にかけての腹縁は左右に拡張し，腹鰭基底間で最大となる。腹面は平坦。腹鰭の棘は強大で，その基部はほぼ胸鰭基部上端の下方に位置する。頭は大きい。口は大きく，斜位で，上顎は大きく突出可能。眼は大きく，眼径は吻長よりわずかに長い。頭部に短い強い棘が発達する。眼窩の上部縁辺に小棘列があり，その内側に上縁部に小棘を備えた骨質隆起がある。頭頂部の各側に V 字をなす骨質隆起があり，それぞれの縁辺に小棘がある。外側の V 字型の隆起は体軸とはほぼ平行。内側の V 字型の隆起は体軸とはほぼ直角をなす。前鰓蓋骨の前後の縁辺の下方部は鋸歯状。歯骨の腹面の隆起部に 1 列をなす小棘がある。

上顎と下顎にそれぞれ微小な円錐歯があり，不規則な 2 列をなす。鋤骨の先端部は口内に大きく突出し，前縁部に約 10 本の小円錐歯がまばらに並ぶ。口蓋骨歯も微小で，不規則な 2 列をなす。舌の先端はやや尖る。鰓耙は瘤状で，小棘を備える。前方の 2 本の鰓耙は特に短い。

体は楕鱗で覆われる。背鰭基底部と，腹鰭始部から臀鰭基底後端までの鱗は大きくて強い。それぞれの後半部は厚く，側方に顕著に隆起して体から離れ，縁辺部には数本の棘を備え，鋸歯状となる。

生時の体色：吻部は淡色。頬と鰓蓋部はわずかに褐色を帯びた銀青色。眼の中央より後方の頭頂部は黒色。側線より上方の体色はわずかに褐色を帯びた銀青色。体の縁辺部の鱗は，前方で 4 列ないし 5 列が，後方で 2 列ないし 3 列がそれぞれの後端が黒色で縁取られる。側線より

下方の体色は銀色を帯びた淡褐色で、縁辺部になるほど黒色が強い。尾柄の中央部に1本の黒色縦線がある。尾鰭の基部にやや幅広い黒色横帯がある。背鰭棘条部の鰭膜に黒色色素胞がある。他の鰭は全て淡色。

Table 1. Counts and measurements of the known specimens of *Cyttomimus affinis*.

Source	This study	Kamohara (1936b, 1938)	Weber (1913)
Number of specimen (s)	1	2	1
Locality	Tosa Bay	Tosa Bay	Banda Sea
SL (mm)	39.6	59-73	68
Counts			
Dorsal fin rays	VIII, 21	VIII, 20-21	VIII, 20
Anal fin rays	II, 21	II, 21-22	II, 20
Pectoral fin rays	14	14	14
Pelvic fin rays	I, 6	I, 6	I, 6
Lateral line scales	43	43	44
Scales above lateral line	6.5		5
Scales below lateral line	12.5		12
Cheek scale rows	4		3
Scales between lateral line and base of soft dorsal	4		4
Gill rakers on 1st arch	9		
Vertebrae	10 + 19 = 29		
Branchiostegal rays	7		
Measurements			
In TL			
HL	2.8		3.0
Body depth	2.3		2.0
In SL			
HL	2.2	2.2	
Body depth	1.9	1.8	
Body width	6.1		
Caudal peduncle length	5.2		
Caudal peduncle depth	11.6		
Spiny dorsal fin base	5.7		
Soft dorsal fin base	4.0		
Pectoral fin length	7.6		
Pelvic fin length	5.3		
In HL			
Eye diameter	2.2	2.5-3.0	2.5
Interorbital width	3.3	2.4-3.0	
Snout length	3.1	2.6-3.0	2.5
Upper jaw length	2.0		
Body width	2.7		
First dorsal spine length	3.7		
Second dorsal spine length	1.7		
Third dorsal spine length	2.1		

備考 本標本の計数形質は Weber (1913), 蒲原 (1936b), Kamohara (1938) の *Cyttomimus affinis* の記載とよく一致した。ただし、原記載では頬部の縦列鱗数が3列とされているが、本標本では4列である。本属にはハワイ産の1個体を基に記載された *C. stelgis* Gilbert, 1905 が知られている。Gilbert (1905) によれば、*C. stelgis* の側線鱗数は53ないし56枚であり、*C. stelgis* と *C. affinis* は体側の鱗の大きさが明らかに異なることにより識別される (Weber, 1913)。本標本の側線の上方と下方の横列鱗数は原記載の数値とわずかに異なるが、側線鱗数は原記載ならびに蒲原 (1936b) と Kamohara (1938) の記載とよく一致した。

過去の *C. affinis* の記載と比較し、本標本は眼径がわずかに大きく、また、吻長がやや短い。本標本はこれまで知られている本種の最小個体である。したがって、眼径と吻長が不等成長をする可能性を否定できないが、一方で種内変異である可能性もまた否定できない。

本標本はアオミシマの口の中から得られたが、漁業者の底曳き網の漁獲物であることから、詳細な水深は不明である。土佐湾の冬季の底曳網漁は通常、水深90 m から220 m 付近の範囲で行われており、これは蒲原 (1936b) の時代と相違がないと考えられる。本研究により、アオマトウダイがほぼ60年ぶりに日本で確認され、また、これまで不明であった本種の歯の状態、鰓耙数、脊椎骨数、鰓条骨数が明らかとなった。

引用文献

- 蒲原稔治, 1936a. 日本の的鯛類に就いて. 植物及動物, 4(2), 21-26.
- 蒲原稔治, 1936b. 日本の的鯛類追補. 植物及動物, 4(6), 43-44.
- KAMOHARA, T., 1938. *On the offshore bottom-fishes of Prov. Tosa, Shikoku, Japan*. Maruzen Co., Tokyo, 86 pp.
- GILBERT, C.H. 1905. The aquatic resources of the Hawaiian Islands. Section II. — The deep sea fishes. *Bull. U.S. Fish. Comm., for 1903*, 23(2), i-xi+575-713.
- MACHIDA, Y., 1984. Family Zeidae. Page 118 in H. MASUDA, K. AMAOKA, C. ARAGA, T. UYENO and T. YOSHINO, eds. *The fishes of the Japanese Archipelago*. Tokai Univ. Press, Tokyo (English text and plates).
- 中坊徹次, 1993. 魚類概説. viii-xxiii 中坊徹次編, 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- PAXTON, J.R., D.F. HOESE, G.R. ALLEN and J.E. HANLEY, 1989. *Zoological catalogue of Australia. Vol. 7. Pisces. Petromyzontidae to Carangidae*. Australian Government Publishing Service, Canberra, i-xii+1-665 pp.
- WEBER, M., 1913. *Fische der Siboga-Expedition*. E.J. Brill, Leiden, i-xii+1-710 pp.

(Accepted 6 December, 2000)